

# 精神・神経系疾患

分野責任者 古 都 規 雄  
学年 6 学年

## I. 前 文

「精神・神経系疾患」は、「脳・神経」CCなどで学んだ知識を総合的にそして実践的にするための講義からなる。本講義では医師として必要な知識を集中的に講義するが、神経系講義の統括でもあり、積極的学習態度をもって講義に臨むことを希望する。

## II. 担当教員

教授 古 郡 規 雄 (精神神経医学)  
教授 鈴 木 圭 輔 (内科学 (神経))  
教授 國 分 則 人 (内科学 (神経))  
教授 竹 川 英 宏 (脳卒中センター)  
准教授 宇 塚 岳 夫 (脳神経外科学)  
准教授 池 田 剛 (脳神経外科学)  
非常勤講師 辰 元 宗 人 (内科学 (神経))

## III. 学修の到達目標

精神・神経系疾患の医学生としての最終的な知識の整理、実践的には系統講義、CCなどで取得した知識・技術の十分な整理・把握を行い、医師国家試験・初期臨床研修に臨めることを目標とする。

## IV. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習 (各回1時間)

系統講義、CCなどで取得した知識・技能の十分な整理を行うに対し、自らの疑問点を整理し講義に臨む。

事後学習 (各回1時間)

講義内容に準拠した国家試験問題などに回答し、自らの欠点を把握・補強する。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	7	16	木	3	精神科症状学 気分障害 統合失調症	古 郡 規 雄	1
2		16	木	4	脳腫瘍	宇 塚 岳 夫	1
3		16	木	5	外科的治療の対象となる脳血管障害	池 田 剛	1
4		16	木	6	脳卒中・頭痛のkey Points	竹 川 英 宏 辰 元 宗 人	1
5		16	木	7	変性疾患・脱髄性疾患のKey Points	鈴 木 圭 輔 國 分 則 人	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
6	7	17	金	1	児童・思春期精神障害 物質依存 病状精神病 器質性疾患 (認知症)	古 郡 規 雄	1

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

客観的試験，出席及び授業態度により総合的に評価する。

#### VII. 医師国家試験出題基準（令和6年版）

総論（Ⅰ保健医療論）5-F-①

総論（Ⅳ症候）8-A～O

総論（Ⅸ治療）2-F-①

各論（Ⅱ精神・心身医学的疾患）1-C

各論（Ⅱ精神・心身医学的疾患）1-E-①②

各論（Ⅱ精神・心身医学的疾患）2

各論（Ⅱ精神・心身医学的疾患）5-A～K

各論（Ⅸ神経・運動器疾患）1-A, B, C

各論（Ⅸ神経・運動器疾患）2-A, B, C

各論（Ⅸ神経・運動器疾患）4-A, B, C

各論（Ⅸ神経・運動器疾患）4-H

各論（Ⅸ神経・運動器疾患）6-C

#### VIII. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	○
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	○
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	○

#### IX. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

オープンオフィスによる個人面談